

# 八百屋丸文 軒下・店内でイベントも

「八百屋丸文」は、東京・洗足池の商店街のはずれに建つ青果店。創業から70年以上の時間が経つ中で商店街の賑わいは失

われ、地域住民のつながりも希薄になりつつある。こうした中、「今の時代に合った方法で、地域に必要とされる八百屋



昨年、店内で行われた絵本の読み聞かせ

など、子どもや近くの小学校に通う児童たちをひきつける場。「子どもを遊ばせて、ゆっくり買物をして欲しい」との思いもある。

ここはイベントスペースにもなり、近所のカフェの出店や、「消しゴムはんこ」のワークショップ、読み聞かせや似顔絵の販売などをする「おたのしみ会」などが開催された。今月は、地域のサークルによるアロマハンドマッサージのイベントが行われたところだ。さらに、シャッターボックスを使用して地域の名所を描いたイラストの展示会を行うなど、軒下を有

効活用する。野菜を陳列する什器は手作り。店内でもイベントを行うことを想定し、スムーズに配置変えができるようキャスターを取付けた。店内では絵本作家による読み聞かせなどが行われたほか、地域住民の打上げや懇親会といった「飲み会」にも利用されている。

販売する商品は、東京・淀橋市場から調達した青果物を中心に、地元大田区の銘品も揃える。雪谷で採取するハチミツ、「大田のお土産10選」に選ばれた「秘伝のイケだれ」や海苔、甘納豆、地域の名所を描いた絵葉書など、お土産にできるものを置くことも、地域の情報も発信する。

店を経営するのは三代目の森井茂氏・啓子さん夫妻。東京・三軒茶屋で営業していた青果店を閉め、同店を継いだのを機にリニューアルを行った。

このまま手をこまねいていたら八百屋は衰退する一方。もっと地域に密



東急池上線「洗足池」駅から徒歩約7分の八百屋丸文。右側の軒下がイベントスペースになる

着すること  
で活路が開けるのではないかと啓子さん。

店内に置かれた木製の身長計には、いくつもの子どもの名前が記されている。来店の際に測定したもので、同店が地域に溶け込んでいることを物語っている。